

# スキルアップ通信 VOL.126

「在庫の山」で倒産寸前の窯元を救った土鍋ヒットにあぐらをかかない8代目の対応力

三重県伊賀市の窯元・長谷園（長谷製陶）は、伊賀焼の土鍋「かまどさん」のヒットで知られています。8代目社長の長谷康弘さんは、百貨店から転身し、倒産寸前の家業を家族一丸でV字回復させました。時代の変化に対応するための試行錯誤には、コロナ時代を生き抜くヒントがありました。

## 作り手は真の使い手であれ

パーツ販売は最初、従業員から大反対されたといいます。かまどさんの製造工程の多くの部分は手作業です。焼くことで収縮する陶器のサイズは一定ではなく、ユーザーに手持ちの鍋の直径を測ってもらったうえで、それに合うパーツを探したり、つくったりする必要があり、かなりの手間が予想されました。対応するための事務スタッフの増員も必要でした。長谷さんは「うちのモットーは『作り手は真の使い手であれ』です。自分が使う立場だったらどうかな？蓋だけ買えたら嬉しくない？と従業員を説得しました」。パーツ販売で愛用者をさらに増やした長谷さんは、07年、37歳で8代目社長に就任しました。

## 初心に戻ってテコ入れ

「かまどさん」販売から10年を過ぎた頃、突如売り上げが下がりはじめました。人気が出過ぎて、製造が追いつかなかったのが一因でした。「出荷することに必死で、使ってもらうための仕掛けにまで手が回らず、流れ作業のような、受け身の姿勢になっていました」2年連続売り上げが下がったことで、テコ入れを開始。長谷さんが指揮をとり、ウェブレシピの更新頻度をあげたり、専門家にレシピを依頼したりして丁寧な情報発信に力を入れました。東京のアンテナショップを中心に、料理教室やワークショップも継続的に開きました。ユーザーアンケートをいま一度見返し、サイズのバリエーションを増やしたり、電子レンジで使えるタイプの陶珍かまどを開発したり。時代に合った製品づくりや、ユーザーの声に寄り添うことで、じわじわと復調しました。この頃から本格的に、米国への販路も広げました。

## 伝統産業で続ける変化

長谷さんは25年前から、自身が発起人となって自社敷地内で「窯出し市」と銘打った陶器祭を始め、毎年約3万人が訪れる一大イベントになりました。伊賀に戻ってきたときに描いた、全国から人が集う窯元が実現したのです。長谷園にも、コロナ禍の影響はありました。「窯出し市」が20年から2年連続で開けず、売り上げで大きな痛手を負いました。百貨店の催事もなくなり、早い段階で通信販売の充実にかじをきりました。「家で過ごす時間が増えた結果、調理器具の購入が増えました」。巣ごもり需要を見越して、生産計画を変更、家族で食卓を囲める土鍋や調理道具をそろえて、危機を乗り切ろうとしています。「私たちが大切にしてきた、家族の団欒や笑顔につながる道具が、今の時代マッチしました。8代も伝統産業の家業を続けてこられたのは、時代の流れや環境の変化に対応してきた結果です」長谷園の9代目には、すでに長谷さんの長女が手を挙げているそうです。古くから伝わる日本文化を大切にしながら変化を重ねることで、伊賀焼を次の時代につなぎます。

フリーランライター・神崎千春

ツギノジダイ 10/19(火) 19:00 配信 より引用

新米が美味しい季節になりました。福島県では今年14年もの月日をかけて完成したブランド米「福、笑い」が発表されました。このお米は、県などが定めた登録制度で認められた農家だけが育てることができるのだそうです。「かおり、あまみ、ふくよかさ」これまでにない個性的な食感・食味が持ち味のお米。取り扱い店舗は少ないようですが、是非食べてみたいと思います。関東でも販売店舗があるようですので、是非福島の新ブランド米「福、笑い」を味わってみてください。

<https://fukuwarai-fukushima.jp/common/images/shop/shop211028-02.pdf>

# スキルアップ通信 VOL.126

## 年末のご挨拶、職場の人への仕方ってどうする？

いよいよ今年も終わりに近づいていますね。さて、仕事納めの日、なんとご挨拶するのがスマートでしょうか？

## 年末のご挨拶の定番といえば？

年末のご挨拶の定番フレーズといえば「良いお年を！」ですね。この挨拶はビジネスシーンに相応しいのか気になります。

そもそも「良いお年を！」はどういう意味？

江戸時代は買い物の代金を購入したその場で払うのではなく、帳簿につけておいてもらい、お金がまとまって入った時などに支払うツケのシステムが主流でした。

ツケの支払いを年内に済ませられるか否かはとても重要なことだったため、今年の支払いは年内に綺麗に片付けてすっきりとした気持ちで良い新年を迎えましょうという挨拶が「良いお年を！」だったのだそう。

また、ツケ払い以外にも大掃除をして年神様をお迎えするなど、良い新年を迎えるためにやるべきことがたくさんあるため、そういったこともひっくるめて年内にやるべきことをしっかり済ませて、良い新年を迎えようねという気持ちを込めて「良いお年を！」と声を掛け合ったともいわれています。

そのほか、昔は1月1日にひとつ歳をとる数え年を採用していたため、「良い歳を重ねてね」という意味で使ったという説もあるんですよ。

## ビジネスの場ではなんという？

今でも今年のことは年内に片付けて、すっきりとした気持ちで新年を迎えたいという気持ちには変わりはないですね。そのため、「良いお年を！」という挨拶は、意味としては問題なくビジネスシーンでも使うことができますが、そのままではくだけた印象です。そのため仕事納めの際など、ビジネスの場で使う際には「良いお年をお迎えください」とお伝えするのが丁寧です。

できれば、「本年も大変お世話になり、ありがとうございました。来年も宜しくお願い致します。どうぞ、良いお年をお迎えください」など、本年の感謝とともにお伝えしたいですね。

## 「良いお年をお迎えください」は12月中旬～30日までの挨拶

本年の間にお会いするのは最後かな？という機会に、「良いお年をお迎えください」とご挨拶しますよね。とはいえ、12月も半ばになってから使うのが一般的です。また、この挨拶が使えるのは12月30日まで。12月31日の大晦日には、新年を迎える準備が整っているであろうことから使わないんですよ。由来を知ると納得ですね。

12月31日のご挨拶は「本年も大変お世話になり、ありがとうございました。来年もよろしくお願い致します」とするのが一般的です。

なお、喪中であっても「良いお年をお迎えください」は問題なく使って良い挨拶とされていますが、気になる場合には12月31日と同様の挨拶とするのがいいですね。

いかがでしたか？「良いお年をお迎えください」と先方から先にご挨拶いただいた場合には、こちらからも「良いお年をお迎えください」と返すのがスタンダードです。その際、〇〇さんもお名前を付け加えるといいですね。

もちろん、こちらからご挨拶する場合にもお名前を呼びかけてからのご挨拶はより心がこもった印象になりますね。しっかりご挨拶をして、しっかりめで、良い新年を迎えたいですね。



2022年は壬寅 寅年です。

自然や環境を見つめ直す年になりそうです。前回の寅年 2009年は観測史上1位の猛暑や非常に厳しかった残暑により熱中症にかかる人が多発したのですが、自然が起因していますので、ある意味、次の寅年への啓示だったのかも知れません。